

## 第七回登山教室指導者養成講習会に参加して

平成30年2月17日(土)18日(日)、小諸市にて各支部より参加者20名で開催  
一日目：安藤百福記念自然体験活動指導者養成センター・カンファレンスホール

・長野県警察山岳遭難救助隊長榑引知弘隊長は、43才の全国一の若い隊長。遭難の3大要因は、地形・気象・人的。特に人的として過信・油断・不注意・持病、技術・体力・知識不足などをあげた。ヘリ救助8年の経験から、ヘリ救助の要請の時間的リミット(ホバリングは目視でするため暗くなってからでは不可能、当日出動には、春~夏16時、秋~冬15時まで)、10m四方のスペースが欲しいこと、樹林帯の木に引っ掛からないためのワイヤー(最長90m)操作のことなどを話された。

・遭難対策委員会の川瀬恵一委員長は、「日本山岳会の遭難対策」として、昨年12月に改訂された遭難対策規程について解説。個人山行も届け出の対象であり、各支部で受入れる部門設定が早急なこと、遭難や事故を防ぐために、登山計画書の策定が有効かつ重要なことを話された。質問がたくさん出た。

・重廣恒夫副会長より、「支部山行及び登山教室指導要綱」として、セルフレスキューと関西支部の登山教室について。テキストも素晴らしい。

二日目：高峰高原・水の塔山 (車坂峠～水の塔山～車坂峠)

重廣副会長を講師とした実技。リーダーになるための山行であることを常に意識することを話された。まずはツボ足で、傾斜が出てからは、わかんもしくはスノーシューで、300歩ずつ交代でラッセルで山頂を目指す。ほぼ初めてのラッセルは、トレースを避けろとの指示に、ミニルートファインディングしながら、気持ちと足がかみ合わない。東北の支部の方は雪慣れしていて早いなあ后感心。頂上からはアイゼンとの短い指示、昼を取りながらの素早い装着で下降。途中のコルで、セルフレスキューの実践。重廣副会長の指導は、エベレスト登山の経験からで、テキストよりもより実践的。いざという時のために、頭で考えるのではなく手が動くようにならなければならない、そのためには月に一度は講習が必要とのこと。また、リーダーとしての装備は、ほぼ共同装備のものだが、重く自分に背負えるのかと少し不安に。仲間同士の山行でも、リーダーの責任が重いことを改めて実感し、リーダーになるための長い道のりに

負傷者を背負う一番有効な方法、ザック使用



ザックは逆さで!

50L以上のザック二つとストックで簡易担架作成



心が震えた。

埼玉支部に戻ってからこの講習で学んだ

ことを少しでも伝えることができるようになりたいと思う。他支部との交流も大変有意義でした。ありがとうございました。 報告：轟 涼